



OpenOffice.org 1.1

導入ガイド

For Linux and Solaris

インストール編



あわしろ いくや
ikuya@openoffice.org

OpenOffice.org 日本ユーザー会
<http://ja.openoffice.org/>

Public Documentation License Notice

The contents of this Documentation are subject to the Public Documentation License Version 1.0 (the "License"); you may only use this Documentation if you comply with the terms of this License. A copy of the License is available at <http://www.openoffice.org/licenses/PDL.html>.

The Initial Writer of the Original Documentation is AWASHIRO Ikuya. Copyright (C) 2003-2004. All Rights Reserved. (Initial Writer contact(s): ikuya@openoffice.org).

Contributor(s): refer to page of Contributors.

このドキュメントについて

このドキュメントは、[OpenOffice.org 1.1](http://www.openoffice.org) 導入ガイドから、インストール関連ページを抜粋したものです

最新版/関連ファイル

このガイドの最新版、PDF 変換前の原版、作成したサンプル、使用したイラストなどは、次のサイトで入手できます。

OpenOffice.org 1.1 活用ページ (for Windows)

<http://oooug.jp/1.1/katsuyou/>

OpenOffice.org 1.1 Support Page (for Linux/Solaris)

<http://desktop.good-day.net/ooo11/>

さらに理解を深めるために

Step 3 の説明では足りないという方は、可知豊さんによる「OpenOffice.org オープンマニュアル」をご覧ください。

Writer, Calc, Impress, Draw のさらに詳細かつわかりやすい解説が掲載されています。

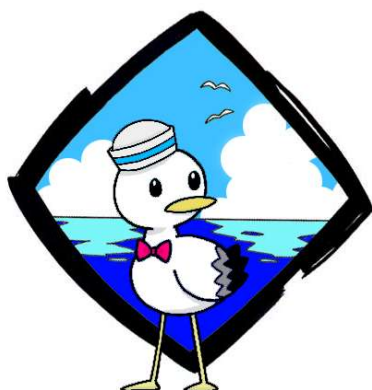
OpenOffice.org オープンマニュアルは次のサイトで入手可能です。

<http://oooug.jp/start/#question>

また、OpenOffice.org 日本ユーザー会による公式マニュアルが発売されています。

『OpenOffice.org オフィシャルユーザーズガイド』

<http://book.mycom.co.jp/book/4-8399-1141-X/4-8399-1141-X.shtml>



Step 1:使えるようにしよう



続いては、インストール方法の解説です。いわゆるセットアップですね。

これが終われば、OpenOffice.org が使えるようになります。

手順は、普通のアプリケーションと同じです。

操作説明に従って、進んでください。

1.1 解凍する

インストールする前に、tar コマンドなどで OpenOffice.org を解凍しておいてください。

例 Linux 版:

```
hoge@localhost:~$ tar xzvf Ooo_1.1.2_LinuxIntel_install_ja.tar.gz
```

例 Solaris 版

```
hoge@localhost:~$ gzip -dc Ooo_1.1.2_SolarisSparc1_install_ja.tar.gz | tar xvf -
```

1.2 インストール方法を選択する

OpenOffice.org のインストールには、2 つの種類があります。「シングルユーザーインストール」と「マルチユーザーインストール」です。

次の場合には、シングルユーザーインストールを行います。

- PC を一人で使っている
- PC 1 台を何人かで共有していて、ログイン名を共通にしている

ほとんどのユーザーは、シングルユーザーインストールでいいでしょう。よくわからない場合は、こちらを選んでおきましょう。説明によっては、スタンドアロンインストールとなっている場合があります。

次の場合には、マルチユーザーインストールを行います。

- PC 1 台を何人かで共有していて、各ユーザーがユーザー名を持っている
- 複数のパソコンを LAN で結び、そのうち 1 台をファイルサーバーにしている

こちらは、ネットワークインストールと呼ばれる場合もあります。

マルチユーザーインストールは、「共有インストール」と「個別インストール」という 2 つのステップに分かれています。

なお apt-get を含む deb パッケージや、rpm でインストールした場合は、自動的にマルチユーザーインストールになります。

もし、以前インストールしたことがある方は、2.8 の「バージョンアップする場合」をご覧ください。

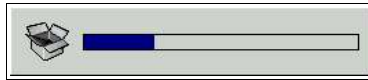
1.3 シングルユーザーインストール

まずはシングルユーザーインストールの手順を説明します。

OpenOffice.org を解凍してできたディレクトリにある setup をダブルクリックするか、コマンドラインから呼び出し、起動させます。回答したディレクトリに移動し、

```
hoge@localhost:~/install$ ./setup
```

setup が起動すると、インストール作業に必要なファイルの解凍が始まります。

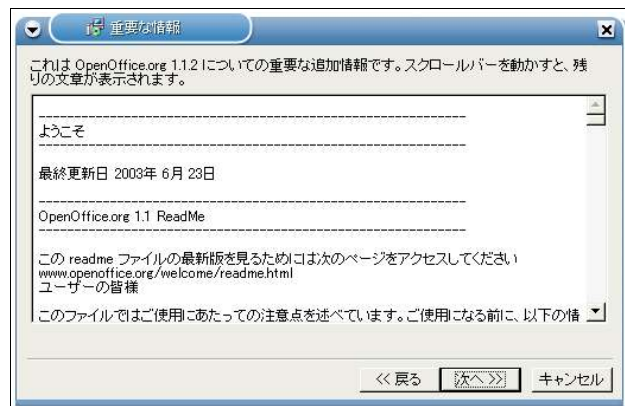


解凍が終わると、セットアッププログラムが表示されます。

インストールのスタートです。
[次へ]をクリックします。

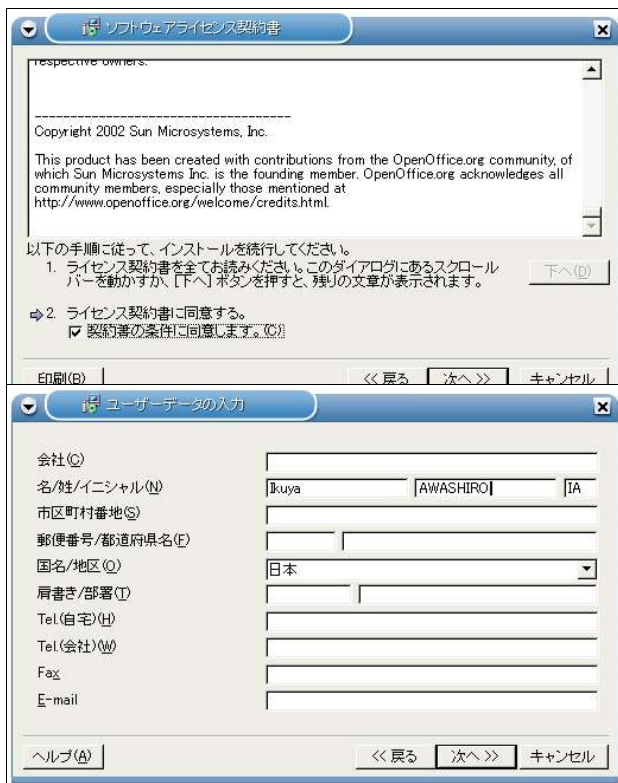


OpenOffice.org の「重要な情報」が表示されます。ひととおり読んだ後、[次へ]をクリックします。



ソフトウェア許可協定が表示されます。

OpenOffice.org 1.1 では、ライセンスを全て読んで、(一番下までスクロールさせて)[協定条件に同意します]にチェックを入れないと[次へ]がクリックできなくなりました。

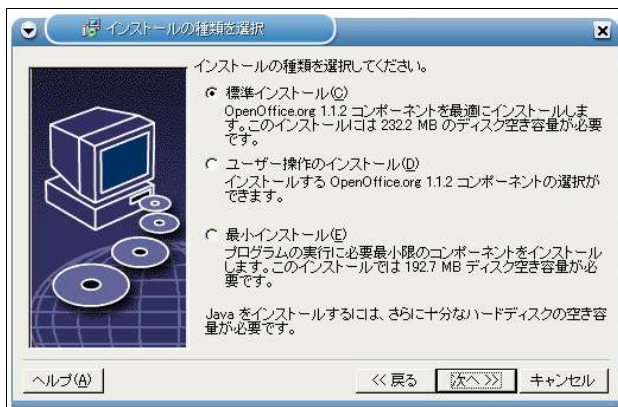


ユーザーデータの入力です。

入力しなくてもインストールはできますが、[バージョン管理]機能を使うことを考えると、名前くらいは入力しておいた方がいいでしょう。

入力してから[次へ]をクリックしてください。

インストールの種類を選択します。
ここでは、デフォルトの標準インストールを行います。そのまま[次へ]をクリックしてください。



インストールディレクトリの設定です。

OpenOffice.org をインストールするディレクトリを指定します。

このままでいいでしょう。

[次へ]をクリックしてください。

ディレクトリがない場合は、作成を確認するダイアログが出てきます。



インストールの設定作業は、これで終わり并表示されます。

[インストールする]ボタンをクリックします。

でも、作業はこれで終わりではありません。

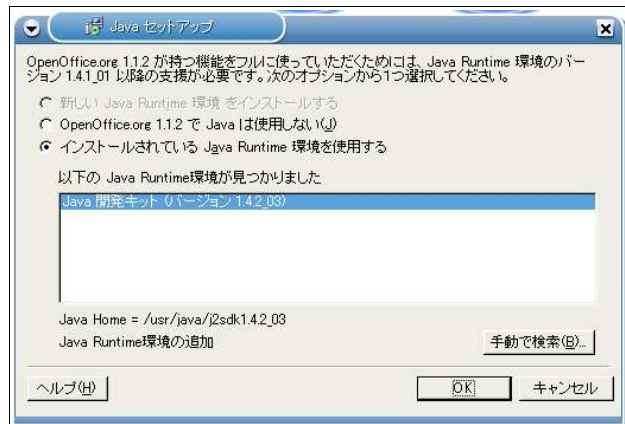


ここでは、Java VM の設定をします。

すでに Java VM がインストールされているならそのまま[OK]ボタンを押しましょう。

もしインストールされていないならば、[OpenOffice.org 1.1.2 で Java は使用しない]にチェックを入れます。

複数インストールされていれば、使用する Java Runtime 環境を選択します。



いよいよインストールが始まります。しばしお待ちください。

数十秒ないし数分でインストールが完了します。

シングルユーザーインストールはこれで終了です。



1.4 起動のしかた

OpenOffice.org 1.1 をインストールすると、GNOME や KDE をお使いの方はアプリケーションのメニューから起動できるようになります。

もちろんコマンドラインからの起動も可能ですので、ここではその方法を紹介します。

まずは OpenOffice.org がインストールされているディレクトリに移動してください。

```
hoge@localhost:~$ cd $HOME/OpenOffice.org1.1.2
```

基本的には、ここで soffice を実行します。

```
hoge@localhost:~/OpenOffice.org1.1.2$ ./soffice
```

しかし、これだとあくまで OpenOffice.org 1.1 の共通な部分の起動をしただけで、Writer でも Calc でもない状態です。



[ファイル]-[新規作成]で起動してもいいのですが、次に代表的なオプションを挙げますので利用してください。

- `-writer`…新規作成状態で Writer を起動します。
- `-calc`…新規作成状態で Calc を起動します
- `-draw`…新規作成状態で Draw を起動します
- `-impress`…新規作成状態で Impress を起動します。
- `-h` ……たくさんのオプションを表示します。

起動例:

```
hoge@localhost:~/OpenOffice.org1.1.2$ ./soffice -writer
```

1.5 マルチユーザーインストール

ここでは、マルチユーザーインストールの手順を説明します。

すでに説明したように、1 台の PC で複数のユーザーが使い分ける場合には、こちらのインストール方法にします。

この作業は、共通インストールと個別インストールの 2 つに分かれています。

1.5.1 共通インストール

マルチユーザーインストールは、一度だけ行う共通インストール(別名サーバーインストール)と、各ユーザーアカウント毎に行う個別インストール(別名ワークステーションインストール)に分かれます。

まずは共通インストールから行いましょう。

共通インストールの場合、インストール前に少々工夫が必要です。シングルユーザーインストールでは Setup を起動するだけでよかったのですが、共通インストールでは管理者権限で setup にオプションをつけて起動する必要があります。

ユーザー名などは、適時置き換えてお読みください。

まずは解凍したディレクトリに移動して、

```
hoge@localhost:~/install$ sudo ./setup -net
```

と入力します。

sudo が使えない場合は、事前に

```
hoge@localhost:~$ su -
```

で、root のパスワードを打ち込んでから

```
hoge@localhost:~/install$ ./setup -net
```

とする方法もあります。

Solaris 版では、DISPLAY 環境変数と X のアクセス権限を正しく設定してください。

root でログインしてセットアップする方法もありますが、ここではお薦めしません。

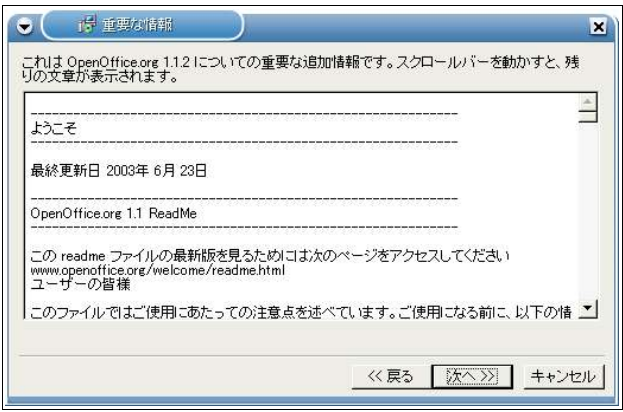
なお、管理者権限がない状態で共通インストールを始めると、エラーメッセージが出ます。

では、セットアップウィザードでインストールを始めましょう。

[次へ]をクリックします。



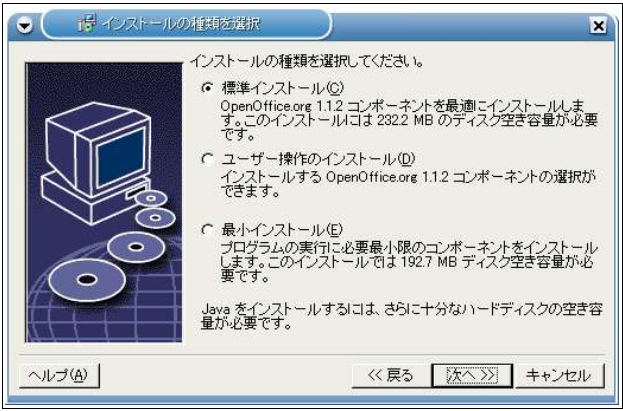
OpenOffice.org の「重要な情報」が表示されます。
[次へ]をクリックします。



ライセンスを全て読んで(一番下までスクロールさせて)[協定条件に同意します]にチェックを入れます。



ここでは、デフォルトの標準インストールを行います。
そのまま[次へ]をクリックしてください。



OpenOffice.org をインストールするディレクトリを指定します。

デフォルトではちょっと変わったディレクトリにインストールすることになるので、必要に応じて変更してください。

ディレクトリを指定したら、[次へ]をクリックしてください。

ディレクトリがない場合は、ここで確認のメッセージが出ます。



インストールの設定が完了したと表示されました。

[インストールする]ボタンをクリックします。



Java VM の選択画面になります。

すでに Java がインストールされているなら、そのまま[OK]ボタンを押しましょう。

もしインストールされていなければ、[OpenOffice.org1.1.2 で Java は使用しない]にチェックを入れます。

複数インストールされていれば、使用する Java Runtime 環境を選択します。



[OK]ボタンをクリックすると、実際にインストール作業が行われます。しばしお待ちください。

これで共通インストールは完了です。
引き続き個別インストールに移ってください。



1.5.2 個別インストール

マルチユーザーインストールでは、共有インストールに続いて、個別インストールが必要です。この操作は、各ユーザーが個別に行います。

まず、個別インストールを行いたいアカウントでログインします。

続いて、共有インストールで OpenOffice.org をインストールしたディレクトリに移動します。

```
hoge@localhost:~$ cd /opt/OpenOffice.org1.1.2/
```

適時インストールしたディレクトリに読み替えてください。

```
hoge@localhost:~/opt/OpenOffice.org1.1.2$ ./setup
```

オプションは特に必要ありません。

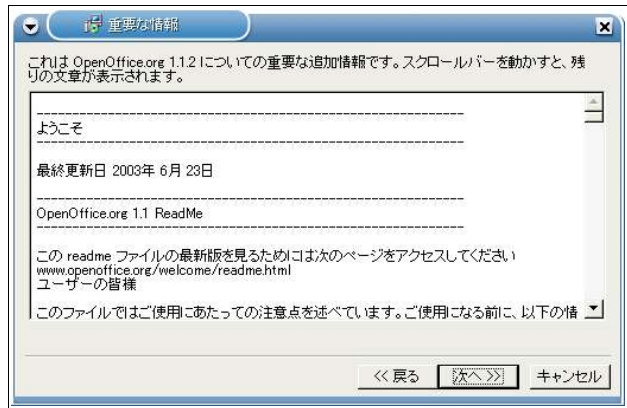
やはり、このダイアログが出ます。

[次へ]をクリックします。

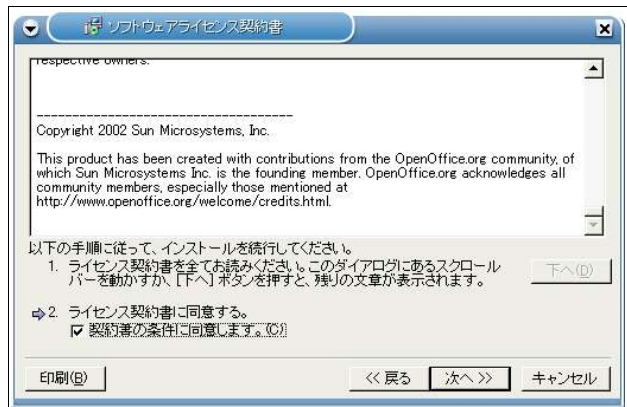


OpenOffice.org の「重要な情報」が表示されます。

[次へ]をクリックします。



「ソフトウェア許可協定」です。一番下までスクロールして、[協定条件に同意します]にチェックをつけます。



ユーザーデータの入力です。
名前くらいは入力して、次へ行きましょう。



ここでは、[ワークステーションインストール]を選択します。



インストールするディレクトリを指定します。
デフォルトのままでもいいでしょう。
[次へ]ボタンをクリックします。

ディレクトリがない場合、ディレクトリを作成するかどうかの確認ダイアログが出ます。



[インストールする]ボタンをクリックします。



インストールが始まりますが、すぐに終わります。



これで完了です。

他のユーザーが OpenOffice.org を使う場合、そのユーザーのアカウントでログインして、同じように個別インストールを行います。

起動方法は 2.5 の「起動のしかた」をご覧ください。

1.6 Debian GNU/Linux でのインストール

Debian GNU/Linux 3.0r2 (woody)をお使いの方は、`/etc/apt/sources.list` に

```
deb http://ftp.freenet.de/pub/debian-openoffice/ woody-test main contrib
```

を追加してください。

sarge ないし sid をお使いの方は、特になにもすることはありません。

その後

```
hoge@localhost:~$ apt-get update
```

を実行してアップデートしておいてください。もちろん、管理者権限が必要です。

インストールは

```
hoge@localhost:~$ apt-get install openoffice.org
```

で行います。

日本語メニューはインストールされないので、一緒に `openoffice.org1.1-l10n-ja` も指定するといでしょう。

sarge/sid では、`openoffice.org-help-ja` もあると便利です。

一度本当にインストールするかどうか質問されますが、`<y>`キーか Enter キーを入力することで続行します。

あとは待つだけです。ファイルサイズが大きいためダウンロードに少々時間がかかる可能性があります。

起動方法は 2.5「起動のしかた」をご覧ください。

1.7 バージョンアップする場合

1.7.1 バージョンアップの種類

バージョンアップは2つの方法で行うことができます。

- 更新

現在インストールされているディレクトリに上書きします。

設定などを引き継ぐことができ便利ですが、予期せぬ不具合が発生する可能性があるためあまりお薦めはしません。

- 新しいディレクトリにインストール

新しくディレクトリを作成し、そちらにインストールします。

この方法だと、以前のバージョンと共存させることができますが、あまり役には立たないでしょう。

設定などを引き継ぐことはできないので、新たに行う必要があります。

1.7.2 更新できる条件

新しいディレクトリにインストールするのは比較的簡単ですが、更新の場合にはある条件を満たさなくてはなりません。

その条件とは、インストール方法が同じであること、インストール形式が同じであることです。

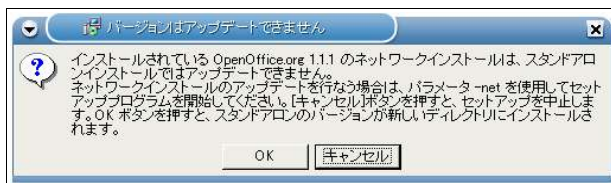
インストール方法とは、例えばシングルユーザーインストールでインストールした場合、更新もシングルユーザーインストールで行う必要があります。

インストール形式とは、例えばRPMでインストールして、バージョンアップをインストール版で行うことはできませんし、その逆もできません。RPMではなく、Debianパッケージでも同じです。

更新できる場合、次のようなダイアログが表示されます。



更新できない場合、次のようなダイアログが表示されます。

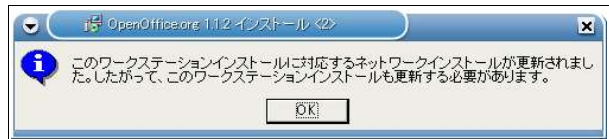


[OK]をクリックすると、



1.7.3 ネットワークインストールの場合

個別インストールは自動的に更新されます。



[OK]をクリックすると、



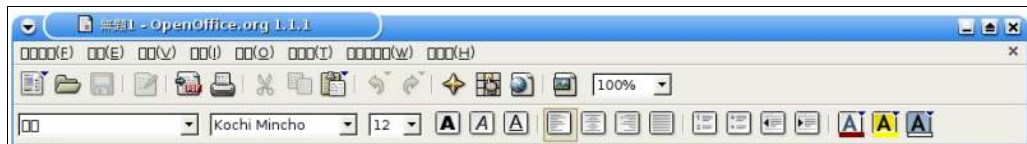
いずれの場合も、これらのダイアログのあと「重要な情報」に続きますので、シングルユーザーインストールの場合は 2.4 に、マルチユーザーインストールの場合は 2.6 に戻ってインストールを続行してください。

1.8 メニューのフォントが表示されない場合

1.8.1 文字化けの理由

Debian だけではなく、他のディストリビューションでも同様ですが、各ディストリビューションが用意している OpenOffice.org を起

動したとき、メニューが表示されないことがあります。

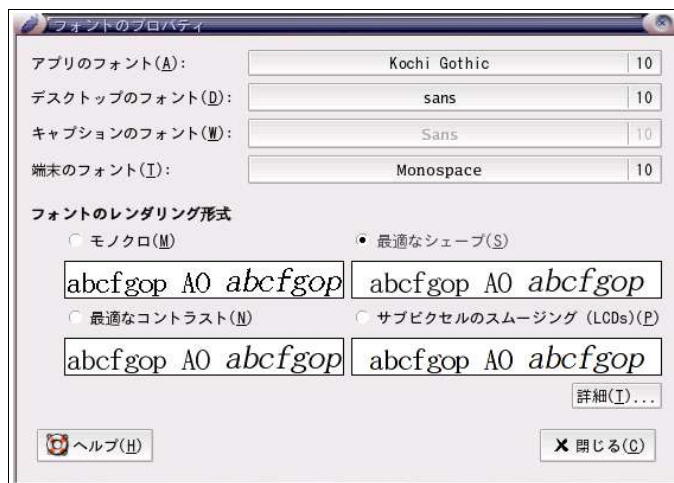


これは、標準でユーザーインターフェイスにシステムフォントを使用しているのが原因です。

日本語を表示させる方法はいくつかありますが、ここではウィンドウ・マネージャで使用しているシステムフォントを変更することによって表示できるようにします。

1.8.2 GNOME の場合

[アプリケーション]-[デスクトップの設定]-[フォント]を起動します。



[アプリのフォント]を[Kochi Gothic]など、日本語フォントにします。

1.8.3 KDE の場合

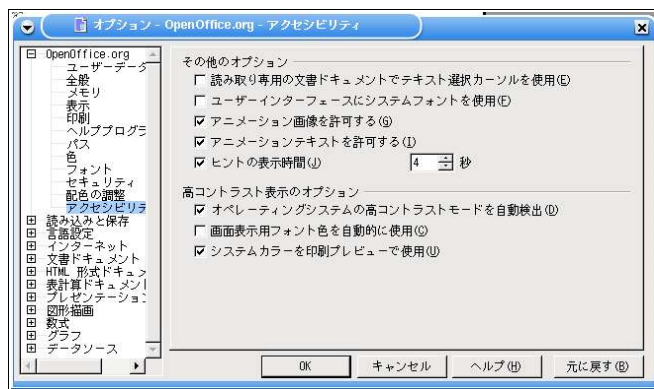
[Kメニュー]-[設定]-[コントロールセンター]-[外観&テーマ]-[フォント]を[Kochi Gothic]など、日本語フォントにします。

設定が終わったら、[適用]をクリックしてください。



1.8.4 ほかの修正方法

結局のところ、[ツール]-[オプション]-[OpenOffice.org]-[アクセシビリティ]の[ユーザーインターフェイスにシステムフォントを使用]にチェックが入っているのが問題なので、このチェックを外すとこの不具合は起こらなくなります



ただ、フォントが表示されていない状態で設定変更するのは至難の技ですので、いったん Window Manager の設定を変更するのがベターです。

1.9 アンインストール

1.9.1 インストールプログラムを使用した場合

OpenOffice.org をアンインストールするには、インストールしたディレクトリにある `setup` を起動します。

```
hoge@localhost:~/openoffice.org1.1.2$ ./setup
```

インストールプログラムが呼び出されますので、`[削除]`を選択します。



ディレクトリごと削除するかどうか決めてください。

`[すべてのファイルを削除]`で問題ないでしょう。



アンインストールの方法は、シングルユーザーインストールと個別インストールと同じです。

共有インストールの場合は、“-net”のオプション付きで `setup` を起動してください。

1.9.2 Debian GNU/Linux の場合

管理者権限で、

```
hoge@localhost:~$ apt-get remove openoffice.org
```

を実行するだけです。

Step 2:付記



2.1 執筆

あわしろいくや

2.2 Contributor (貢献)

可知 豊

Portions created by Yutaka Kachi are Copyright(C)2003 All Rights Reserved. (Contributor contact(s): catch@openoffice.org).

2.3 協力

三月(イラスト)

谷口康明(Solaris 対応)

OpenOffice.org 実験室

(株)グッデイ

2.4 変更来歴

2004-06 1.1.2 対応版リリース

2004-06-20 1.1.2 インストール編 linux/soralis を作成 catch

2.5 その他

本文中のフォントは、(株)モトヤの著作物である「モトヤシーダ 1」を使用させていただいてますが、現在このフォントは公開されていません。修正する場合は、ほかのフォントを使用してください。

(株)モトヤの Web サイトは <http://www.motoyafont.jp/> です。

なお、使用フォントは今後の更新で変更される予定です。

Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Sun, Sun Microsystems, Java, Solaris, StarOffice, StarSuite は米国 Sun Microsystems, Inc の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Intel, Pentium はアメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。

Microsoft, Microsoft Windows, Microsoft Office は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

X Window System は、米国 X Consortium Inc. の登録商標です。

Macromedia, Macromedia Flash は米国 Macromedia, Inc の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

その他本文中に記載されている製品の名称は、関係各社の商標または登録商標です。なお、本文中では TM マークおよび R マークは明記していません。